

令和 元年 6 月 10 日現在

機関番号：37111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04586

研究課題名(和文) 専門学校教員の「職業的アイデンティティ」 「役割認識・専門性認識」に着目して

研究課題名(英文) Professional identity of specialized training college teachers

研究代表者

植上 一希 (Uegami, Kazuki)

福岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：90549172

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、量的調査・質的調査を通じて、専門学校教員の職業的アイデンティティの特徴を明らかにした。

主たる研究成果として、『産業教育学研究』第47巻第2号にて「専門学校教員研究における方法の検討」を論文として発表している。また、日本産業教育学会第59回大会シンポジウム「高等職業教育とは何か」において植上が司会を、瀧本がシンポジストをつとめ、研究成果の報告を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

専門学校教員の職業的アイデンティティの特徴を明らかにすることで、専門学校教員の実証的な評価、正確な実態解明へとつながる点に、専門学校研究としての意義がある。また、職業アイデンティティの観点から専門学校教員を分析することで、専門学校研究のみならず、教師研究・教員研究にも新たな論点を提示することができる。

また、専門学校教員の状況を把握することで、効果的な研修プログラムの開発などにもつながり、結果として専門学校教育の質の向上へと貢献できる。

研究成果の概要(英文)：This study clarified the characteristics of professional identity of specialized training college teachers through quantitative survey and qualitative survey. The main research results are as follows.

"Examination of the Research Method for Teachers of Specialized Training College."

"What is higher vocational education."

研究分野：教育学

キーワード：専門学校教員 職業的アイデンティティ 専門学校教育の質向上 専門学校教員研修 専門学校教員研究 役割認識・専門性認識

1. 研究開始当初の背景

日本の高等教育段階における職業教育の中核を担う専門学校教育はその重要性に対して、その実態解明は進んでいない。その最大の理由は、専門学校教育の制度的規定が緩く、多様な形で教育が展開されており、それゆえに分類的・構造的把握が困難であることにある。

こうした問題にアプローチする際、専門学校教育の主たるアクターである専門学校教員の実態や特徴を把握することは、研究の重要な足掛かりとなる。そうした問題意識から、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて実施した基盤研究 (C)「専門学校が養成する『能力』に関する検討 教員への量的・質的調査を中心に」(代表・植上一希)を継続・発展する形で、本研究を開始した。

2. 研究の目的

上記の問題意識をふまえ、本研究では専門学校教員の職業的アイデンティティを実証的に明らかにすることを目的とした。

本研究の意義としては、専門学校教育についての実態解明がほとんどなされていないなかで、専門学校教育の外部規定と内部規定という枠組みを設定し、前者の検討を基盤として、内部規定について実証的に研究する点に、本研究の学術的特色がある。

また、そもそも、専門学校教員を対象とした検討を行う点、そして、彼らの役割認識・専門性認識に焦点をあて、職業専門性と教職専門性という分類を行う点に、本研究の独創的な点がある。専門学校研究においても、教師研究・教員研究においても、専門学校教員は全く対象とされてこなかった。本研究は、専門学校教員研究として初めての本格的な研究であり、職業アイデンティティの観点から専門学校教員を分析することで、専門学校研究のみならず、教師研究・教員研究にも新たな論点を提示することができると思う。

なお、現在、専門学校をめぐっては、新たな高等教育機関の制度化が検討されている。ここでは、教育の質保障の問題、教員の資質の問題などが中心的な論点となっており、本研究の成果はこうした政策立案ならびに、各専門学校における教育改善の取組みに対しても寄与すると考える。

3. 研究の方法

本研究では、以下の研究方法を組み合わせることで専門学校教員の職業的アイデンティティの実態を調査した。

(1) アンケート調査の実施と分析

一般社団法人全国専門学校教育研究会の協力のもと、加盟校への質問紙調査を実施して、専門学校教員のキャリア形成に関する意識調査を実施した。そのデータをもとに、専門学校教員の職業的アイデンティティに関する特徴や課題などを分析した。

(2) インタビュー調査の実施と分析

調査対象校 3 校に対して、調査対象校ごとのグループをつくり、インタビュー調査を実施した。加えて、それ以外の専門学校や教員に対する追加のインタビュー調査も実施し分析を行った。計 20 回の調査を実施した。

4. 研究成果

調査から導出されたのは、専門学校教員の職業的アイデンティティの多様性である。それらは、主に、専門学校教員のキャリア形成過程との相関関係が強いことが調査からうかがわれた。

また、職業的アイデンティティは専門学校教育において設定される人材像や育成すべき能力とも相関関係があることがわかった。

こうした結果をもとに、専門学校教員のキャリア形成過程を類型化する必要性を提起した。また、専門学校の質保証・向上の観点から、今後発展が期待される専門学校教員への研修についても、上記の専門学校教員の職業的アイデンティティの特徴を踏まえたうえでなされるべきという提起を行った。

これらの成果について、「5」に記した発表論文や学会発表の他に、以下の形で成果を発信している。詳しくはそちらを参照していただきたい。

瀧本知加・京免敏夫・吉留久晴・植上一希「シンポジウム：高等教育とは何か」『産業教育学研究』第 49 巻第 1 号、2019。

植上一希・佐藤昭宏・成底敏『教員研修実態に関するアンケート調査結果』全国専門学校教育研究会 (http://www.zsenken.or.jp/senmon/pdf/enquete_jittai.pdf) 2017。

佐藤昭宏・植上一希・児島功和ほか『専門学校生の学習と生活に関する実態調査』ベネッセ教育総合研究所、2017。

なお、今回の調査では、専門学校教員のキャリア形成過程の類型化はできなかったため、それが次の研究課題として残っている。2019 年度から開始する基盤研究（C）「専門学校教員のキャリア形成過程の類型化」（研究代表者：植上一希）において継続・発展させていきたい。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

植上一希「『大学の専門学校化』批判の特徴と問題点」『技術教育研究』第77号、14 - 19 頁、2018。

瀧本知加「専門職大学の制度化とその教育の課題：専門学校の一条校化と高等教育における職業教育の体系化」『福祉社会研究』第18号、149 - 160 頁、2018。

植上一希・瀧本知加「専門学校教員研究における方法の検討」『産業教育学研究』第47巻2号、9 - 16 頁、2017。

二宮祐・小島佐恵子・児島功和・小山治・浜島幸司「大学における新しい専門職のキャリアと働き方：聞き取り調査の結果から」『大学評価・学位研究』第20号、印刷中。

二宮祐・小島佐恵子・児島功和・小山治・浜島幸司「高等教育機関における新しい「専門職」政策・市場・職能の観点から」『大学教育研究ジャーナル』第14号、1-20 頁、2017。

植上一希「『大学の専門学校化』批判の問題性 専門職業大学の創設に関連して」『現代思想』第44巻21号、154-163 頁、2016。

〔学会発表〕(計4件)

植上一希「専門学校における職業教育の特質と学生の成長-『大学の専門学校化』批判の問題性」大学評価学会第15回全国大会、2018。

植上一希・瀧本知加「専門学校教員の『職業的アイデンティティ』研究の枠組み」日本産業教育学会第57回大会、2016。

瀧本知加「専門学校教員のライフストーリー研究」日本教師教育学会第27回大会、2016。

植上一希・竹井沙織・小田茜・辛島友紀「専門学校制度改革の現在 新たな高等教育機関の制度化に関する議論に焦点をあてて」日本教育学会第75回研究大会、2016。

〔図書〕(計4件)

植上一希・寺崎里水編『わかる・役立つ 教育学入門』大月書店、総184 頁、2018 年（児島功和も分担執筆）

植上一希・伊藤亜希子編『日常のなかの「フツー」を問いなおす 現代社会の差別・抑圧』法律文化社、総188 頁、2018 年。

児島功和「大学大衆化時代の学びと生活」乾彰夫・本田由紀・中村高康編『危機のなかの若者たち 教育とキャリアに関する5年間の追跡調査』東京大学出版会、267-288 頁、2017。

児島功和「居住の移行と大学生生活」藤本夕衣・古川雄嗣・渡邊浩一編『反「大学改革」論 若手からの問題提起』ナカニシヤ出版、117-130 頁、2017。

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年：

国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6．研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：瀧本知加
ローマ字氏名：TAKIMOTO TIKA
所属研究機関名：東海大学
部局名：熊本教養教育センター
職名：准教授
研究者番号（8桁）：10585011

研究分担者氏名：児島功和
ローマ字氏名：KOZIMA YOSIKAZU
所属研究機関名：山梨学院大学
部局名：経営情報学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：80574409

(2)研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。